

新たな栽培技術を活用した 持続可能な農業経営の確立

～ 地域の担い手を核とした活力ある農業を！ ～
(対象：当麻町緑郷地区8戸)

対象地区の概要

水稻を基幹作物とし、畑作、施設園芸との複合経営が主体
施設園芸はすいか、きゅうり、ミニトマト、きくを栽培
平均年齢54.1歳、平均経営面積約31ha

1 課題設定の背景

- ・ 家族内労働力に依存している農業者が多く、作付規模に対し慢性的に労働力不足
- ・ 米価の低迷、物財費の高騰が経営に影響→持続的経営のためコストダウンが不可欠
- ・ 若手・女性農業者が労働力として中核となるが、情報収集・学習する機会が少ない

推進事項

1. 省力化技術による労働軽減
2. 若手・女性農業者のスキルアップ

2 活動の経過

省力化技術導入による労働軽減

高密度播種短期育苗栽培



育苗巡回
品種適性
検証
研修会

成苗ポット疎植栽培



試験展示
ほの設置
個別巡回
研修会

若手・女性農業者のスキルアップ



ほ場巡回
研修（水
稲・ミニ
トマト）



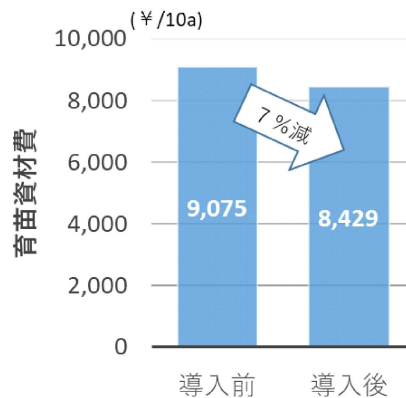
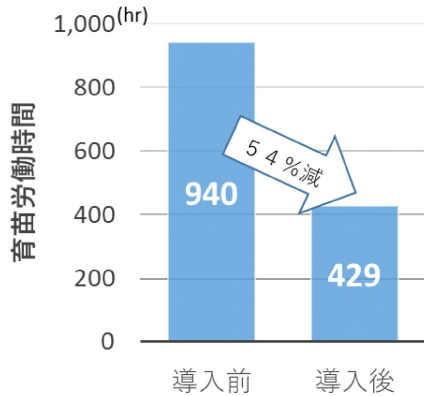
栽培管理
研修会・
加工実習

3 成果の具体的な内容

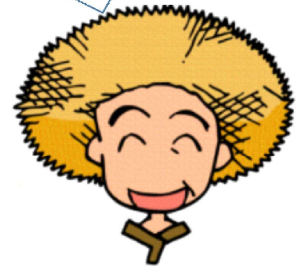
省力化技術導入による労働軽減

省力化技術導入面積：現況1,595a→実績4,450a

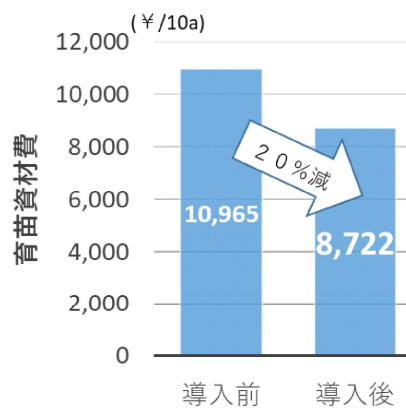
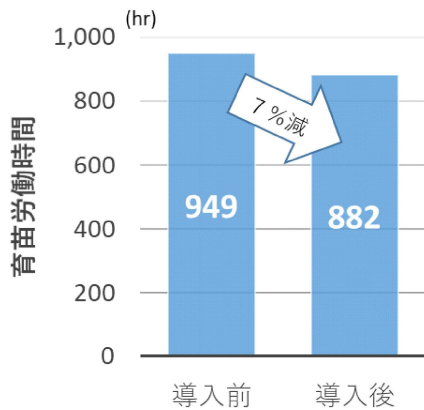
高密度播種短期育苗栽培：I氏で水稲作付全面積約29ha導入



管理するハウスの棟数が減れば他の作業に力を入れられるよ



成苗ポット疎植栽培：K氏で約16ha導入（水稲作付面積の約54%）



既存の移植機を使用できるから取り組みやすいね



若手・女性農業者のスキルアップ

個別課題の習熟度70%達成：現況0人→実績4人

Mさん

水稲の苗質が飛躍的に向上



Lさん

すいか土壤病害の蔓延防止対策を家庭内で共有・実践



Mさん・Nさん・Oさん

ミニトマトのベースグリーン発生対策の理解を深め実践



4 今後の対応

省力化技術導入による労働軽減

高密短、疎植栽培など省力化技術の導入支援を継続

若手・女性農業者のスキルアップ

施肥設計手法の習得、栽培講習会の実施